

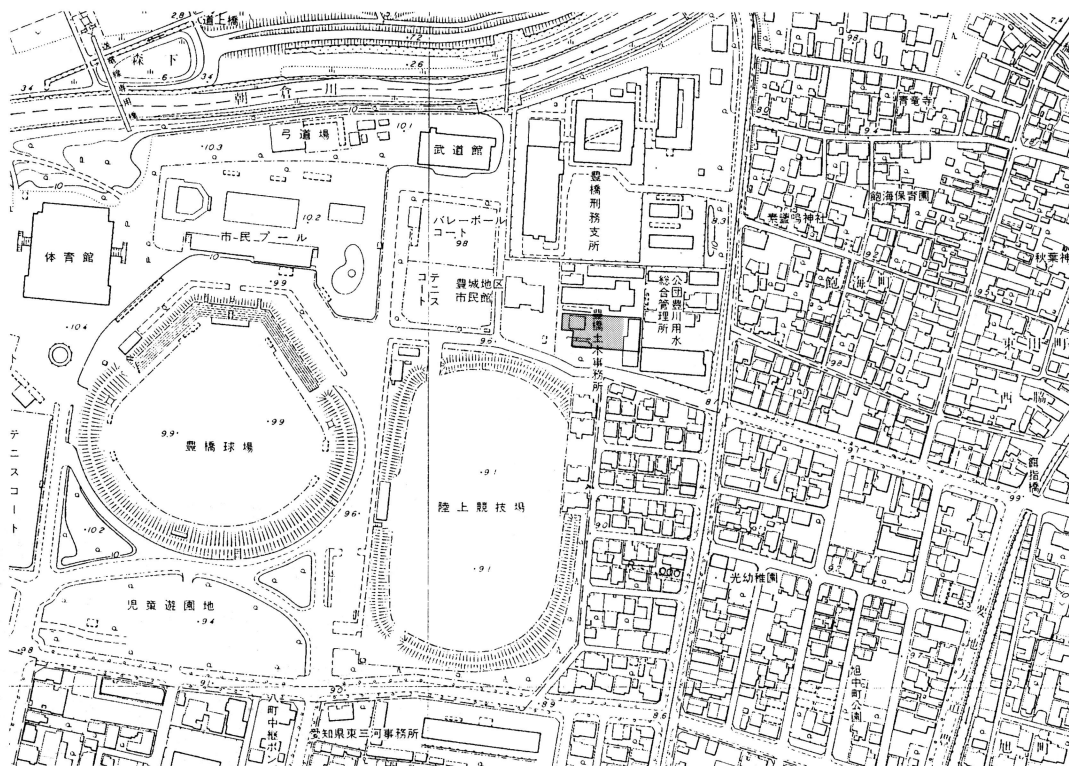
よしだじょう
吉田城遺跡

調査の経過 吉田城遺跡は、豊橋市を流れる豊川の左岸、朝倉川と合流する段丘上に位置している。今年度の調査区は豊橋市今橋町に所在し、江戸時代の吉田城々下町の東端部にあたる。調査は豊橋土木事務所の新庁舎建設に伴うもので、平成8年4月から7月にかけて、約800㎡について実施した。

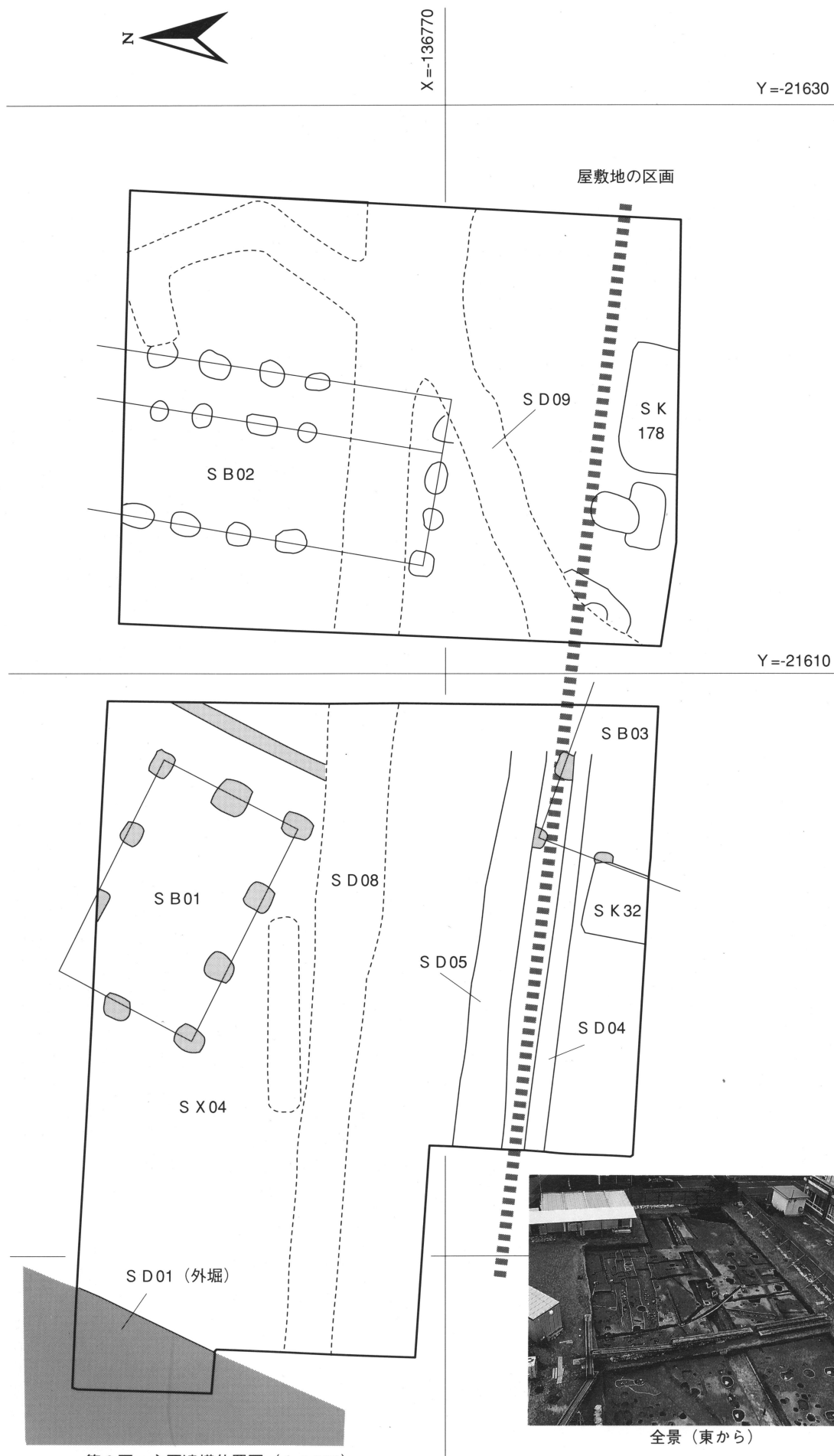
調査の概要 発掘調査では、平安時代の建物跡2棟(S B01・03)、江戸時代の溝3条、建物跡1棟、廃棄土坑等の遺構が検出された。

江戸時代の吉田城々下町に関係する遺構として特筆されるのは、調査区西端で検出された南北に走る溝 S D01 で、位置・規模等から城下町の外堀と推定される。S D01 の東には東西に平行して走る2条の溝（S D04・05）がある。東側では削平され遺存していなかったが、S D01 との位置関係から屋敷地の区画溝と推定される。これら3条の溝により、調査区内には2つの屋敷地が想定され、北側の屋敷地では建物跡1棟（S B02）、南側の屋敷地では廃棄土坑（S K178）等の遺構が検出されている。

本調査区ではこの他にも、明治以後に設置された陸軍に関する遺構として塹壕（S D 08・09）、防空壕（S X 04）などが検出されている。（原田 幹）



第1図 調査区位置図 (1:5000)



第2図 主要遺構位置図 (1:200)